

第4回元幹部自衛官会員会 (元自会員3千名達成記念会)

入会推進特別委員会 理事
小淵 信夫 陸自78

3月10日(金) 14時〜19時、グラン
ドヒル市ヶ谷において、3年半ぶりに
第4回借行社元幹部自衛官会員会を開
催した。参加者総数は来賓を含め170
名を超えた。本会同は、前回同様入会
促進特別委員会が担当したが、今回は
特に、元幹部自衛官会員(以下元自会
員と称す)3千名を達成した記念会同
と位置づけ、実施された。

構成は、第1部プレミアムスピーチ、
第2部懇親会。今までの会同のモツ
トである「元自会員が生涯を通じて
絆を強め、親交を深める会。気楽で楽
しい心に残る会を、今回も継承した。

当初、白石副理事長から、会同開会
の辞が述べられ、続いて、富澤理事長
から次の主催者挨拶があった。

「今回の会同の趣旨に最初は3千名
達成記念は入っていないかったが、柳沢
入会促進特別委員長は大変な苦勞・思
いで努力し、先だって間違いなくこれ
を達成したとの報告を受けてこの文字
が入った。顧みると15年前に深山副理
事長をはじめ最初の元自約200名が正式
に加入した際は、正会員が1万3千名、

その大半は旧陸軍先輩会員だったが、
15年経ってやっと今回、元自会員が3
千名を超えた。陸士・幼年学校出身の
方々もこれをお祝いしていただきた
い。そしてまた、この借行社が、これ
で元自会員に引き継がれ、長くやって
いけるといふことを感じていただけ
ばと思います」



第1部 プレミアムスピーチ

最初の講師は赤松義隆氏で、演題は、
「私と自衛隊、私が今、各級指揮官に
申したいこと」。概要は以下のとおり。

「自衛隊の任務の原点に立ち返り、
『部隊に於ける統率特に統御の重要性』
について考え、部下を指導していただ
きたい。具体的には、平時の自衛隊は、
有事任務を達成しうる強い部隊を錬成
するにあるが、立派な装備を駆使する

のも赤い血が通った人間であり、統率
特に統御が極めて重要。自衛隊は今や
信頼される組織となったが、本質的統
率環境に変化はない(憲法違反、軍人
でない、名誉や地位・誇りが与えられ
ていない)。自衛隊は何をもって戦う
のか。親身になって本気で面倒をみて
くれる状態をつくること。服務指導は
統御の重要手段であり、事故防止では
なく個人を育てる目的で、常に、愛
情・気概・情熱をもって継続的に対話
を行うこと(例…営内班長、参考…軍
隊内務令・ある将兵の手記)に見る
東部ニューギニアにおける統御。43戦
闘団長における統率談話」。

最後に、曾野綾子氏の「感動の高ま
りなき人生は無」を紹介された。
お二人目の講師は志方俊之氏で、演
題は、「陸幕のG1・G5を勤務させ
られた専門のない自衛官生活」だった。
ご自身のこれまでの戦歴について
「現役時代は専門なし。退役後は何で
も屋」であり、エピソードを含めて興
味深い話を縷々紹介された。
「一番辛かったことは、米国防衛駐
在官当時、米軍が中東での戦いで月に
約50名、約6千9百名の戦死者を出し
たが、父や息子達の葬儀で、『日本は
中東の原油に頼っているが、そのため
に彼らは死んだのだ』と言われること
だった。責務を果たさぬ日本、ソケは

アメリカ社会にもたらされた。輝号計
画では階級制度の改善を行った。将官
の数を減らし、文官と一緒にする、指
定職を増やすものであったが、評判は
悪い。最後に、『昔は、学生が勉強し
ないと自衛隊にいれるぞと言ったが、
今は入れない。自衛隊は、たいしたも
のだ』と思っている」

三人目の講師は、曾我政弘氏で、演
題は、「我が国の防衛に関して思うこ
と(副題…「一国民の視点と論点」)
とされ、「防衛大卒の、ある技術者の
半世紀」、「防衛に関する一国民の素直
な疑問と論点」について話された。
概要は、幹候校在学中に体調を崩し
卒業直前に依願退官したこと。大学院
を出て電機メーカーで開発エンジニア
としてスタートしたこと。東京オリ
ンピックの跳びこみ競技用電光掲示板を
設計したこと。防衛関連技術にも携
わったが、その際は同窓生に大変お世
話になった。日立電子の前社長(陸士
卒・東工大の卒業生)が、今後は企業
のラインで能力を発揮できる体制が必
要とのお考えで、「君は俺の後輩だ」
と言ってくれて感激した。

第2点目として、「防衛大は建学の
趣旨から、本科は全て理工系に戻すこ
と。幹部への登用試験は暗記ではなく、
技術的な知見を評価すること。文科系
の学問は研究科(国家公務員総合職・

司法・外交官試験)で行うこと」の他、学位審査、指揮命令系統、弾道ミサイル防衛、駆け付け警護、防衛法制と憲法など。多方面に関して、独創的・斬新な見解を示され、提言された。

続く討論会では、富澤理事長が司会を担当された。

赤松講師に対して、理事長から、「統率、血の通った統御は、我々当時も不十分だったが、現代の第一線ではなくなっているのではないかと心配されている。これは仰せのとおりであるが、さらに教育訓練を含めてのご意見を伺いたい」との問いに、「昔、築城能力や地雷構築ができなかった。訓練管理が十分できていなかった。今は訓練管理がなくなったと聞いている。であれば、これは問題だと認識している」と発言された。

また服務指導の問題について、会場からの「現代も同じ気持ちでやっており、現代のやり方で効果が上がっているところもある」との意見に対し、「今の若い人は対話をしない。雑談でいいから自分からしゃべり出すことが大事である」と結ばれた。

志方講師に対しては、「陸自で、教育した者を、その後の経歴管理で使っていない。人事と教育の吻合が問題」

「優秀な幕僚が、優秀な指揮官とは限らない(逆も)」という指揮官と幕僚の問題」をテーマに質問があった。

これに対し志方氏は、各個人の自己啓発が重要だが、計画的な育成が必要であること。余裕をもっておおらかに教育に出し、新しいものを、枠をおち破ってやらせることだと強調された。

また、「輝号計画が部隊規律のゆりみを生んだとの批判があったこと」に対する意見を求めたところ、「輝号計画には、メイン施策である人事制度の改善、即ち自衛官の処遇改善と、服務制度の改善等があった。平成当初の史上まれにみる募集難の時期に、輝号計画のお陰で、直ちに予算処置を必要とする自衛官の処遇改善施策に取り組むことができ、その意義は極めて大きかった。服務制度の改善等に対する批判については、指揮官の裁量責任に負う面もあったように思う」との意見が出された。

曾我講師については、提言のあった理工系と文系の件に関して理事長から、「文科系が正規に導入された期においては、その後の1佐一選抜に文系出身者が高い比率で入っている(数字略)」と紹介され、会場に意見を求めたところ、「人数のバランスが悪いのではないか」、「若い時は装備の操作や

運用にも理工系の素養が必要だが、階級が上がってくると一つの学問では論争・議論ができない。CGSで求められる状況判断が欠けてくるとの指摘もあり、陸自・陸幕では、文系導入に賛成が多かった」との意見が出された。

第2部 懇親会

懇親会は、司会である林直人委員の開会の辞で開始された。

志摩会長から、参加へのお礼とお願いの挨拶があった後、来賓祝辞として、佐藤正久議員(元自83)、陸自幹部学校副校長手塚信一陸将補(陸自83)の挨拶の後、野口清秀氏(陸士57)より、「平成13年、偕行社の陸自への継承について賛否があった当時、57期は、後継者は必要で陸自にお願いする意向を示し、現在がある」ことを力強くお話された。

藤森栃木県偕行会会長兼偕行社理事の乾杯で会食・懇談に入り、講師を交えて、モットーのとおり、気楽で楽しい心に残る会となし、親交・絆を深めることができた。

会を盛り上げるため3曲が合唱され、富澤理事長も一緒に声高らかに歌われる中、会場も一緒になって歌い上げた。最後は、安全保障委員会 火箱委員長による万歳三唱で閉会した。

●講師主要略歴

赤松義隆氏 陸自57

熊本県出身・鹿児島大学水産学部卒、第43普通科連隊長、第5師団司令部幕僚長、富士学校普通科部長
退官後、日本通運株式会社顧問。
志方俊之氏 陸自58

石川県出身、防大2期、工学博士、第2師団長、北方方面総監、退官後、帝京大学教授、都災害対策担当参事、中央防災会議中央委員、防衛大臣補佐官、現在、帝京大学名誉教授。

曾我政弘氏 陸自58

神奈川県出身、防大2期、工学修士、昭和36年日立製作所入社、防衛技術推進本部次長、日立電子社長、日立国際電気相談役、筑波大学法学博士、現在、日立国際電気名誉相談役。

